

近代の牛乳瓶

ひらのしじんやあと
調査：平野氏陣屋跡 第3次調査

高さ：16.7cm（大）、11.7cm（小）

出土年：1992年

時代：近代

田原本を治めた平野氏は、明治維新の際に一万石の大名となりますが、間もなく^{はいはんちけん}廃藩置県・^{はんせきほうかん}版籍奉還となり、藩主平野家は東京で貴族院議員となる一方、残された藩士はそれぞれ事業に手を出すなど、自活の道を探ることになりました。

さて、「文明開化」の掛け声とともに食生活が欧米寄りに変化していく中、「牛乳」を飲む習慣が広まります。明治5年の「日新記聞」の記事にもあるように、滋養強壯の良薬として勧められるとともに、士族の新たな職として酪農が推奨されたのです。旧田原本藩士の一人も酪農を始め、^{じゅんせいけん}「順生軒」の屋号で牛乳の販売をおこないました。

「田原本順生軒」の銘が入った牛乳瓶は、田原本町役場改築時の発掘調査で見つかった近世～近代の大溝から出土しました。陣屋廃絶後に尋常小学校が設置された場所で、大溝からは近代の^{すずり}硯や石板・石筆なども出土しています。

田原本で酪農を営んだ順生軒は、第2次世界大戦の折の物資・人手不足のため廃業しましたが、旧士族の産業として一定の成功を収めた例といえるでしょう。

このように、近代の小さな牛乳瓶から、明治維新と文明開化の一断面を窺うことができるのです。

